

## 2 設置の仕方

### (1) 通級距離に応じた設置

- A 旧市町に合わせて教室を設置（旧市町の体制をそのまま生かす）
- B 市の東部と西部に教室を設置（東西に長い地域をカバーする）
- C 分教室にスタッフが出向く（曜日を決めて出向き、広域をカバーする）

### (2) 目的に応じた設置（居場所づくりと学習支援）

#### (1) 通級距離に応じた設置

	特 徴	課 題
A. 旧市町に合わせて教室を設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町合併後も変わらず、それぞれの地域で子どもの支援が可能である。</li> <li>・同じ運営方針の下で子どもの支援に当たるため、情報交換や教室相互の連携がとりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1教室の人数が少なくなり、集団活動を取り入れにくい。</li> </ul>
B. 市の東部と西部に教室を設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い地域の両側に設置することで、近い教室への通級が可能になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが分散するため、指導員の負担が増える。</li> </ul>
C. 分教室にスタッフが出向く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本教室が遠方で通級できなかった子どもが通級可能になる。</li> <li>・学校の教員が空き時間に子どもの様子を見に来ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本教室と分教室とにスタッフが分散するため、指導員の負担が増える。</li> </ul>

#### ○本教室とは別に分教室を設置してスタッフが出向く（丹波市）

	月	火	水	木	金	
9:30~	登校 自主学習	登校 自主学習	登校 集団活動	登校 自主学習	登校 自主学習	
12:00~	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
13:30~	自主学習	自主学習	A 教室 自主学習	B 教室 自主学習	C 教室 自主学習	話し合い
15:30	下校	下校	下校	下校	下校	

#### 運営中に生じた課題解決のために

- ・開設当初は B 教室を月曜日に開室していたが、水曜日に移動（休み明けの月曜日は欠席がちになる。通級しやすくするため）
- ・C 教室を木曜日の午前から午後に移動する。（午後の通級を励みに午前中の登校を促す）

#### 【指導者からの声】

- ・本教室までは遠いため通級できなかった子どもが、保護者の送迎により参加できるようになった。それにより、当該学校の先生が空き時間に訪問する機会ができた。
- ・本教室に通級している子どもが校区近くの分教室に参加することで学校との精神的な距離が近づき、別室登校につなぐことができた。

#### (2) 目的に応じた教室を設置（伊丹市）……

##### <やまびこ館>

目的：学校とは違った雰囲気の中で学習や集団での活動を体験させることにより、集団生活への適応を促し、学校生活への復帰を支援する。

対象：市内在住の小・中学生

内容：個別学習（教科学習、読書、創作活動）  
集団活動（園芸、調理、スポーツ等）、行事

保護者からの申し出→学校内での協議→当センターと学校との協議→本人・保護者見学→仮入館（学期末の運営委員会にて正式入館）

##### <学習支援室>

目的：学校や「やまびこ館」と連携しながら学力の向上や学ぶ意欲を高めることを通して将来的な自立に向けた学校復帰を支援する。

対象：市内在住の小・中学生

内容：個別学習 月・火・金…英語中心  
水・木 ……算数、数学中心

■ 指導者からの声、 ■ 改善点を示しています。

### 3 学校復帰への手立て

学校復帰に向けての取組は、本人の気持ちが学校に少しでも向いていることが前提で、本人に学校に対する強いアレルギーがある場合に無理にすると、不信感につながったり、適応指導教室にも通級しなくなったりする可能性があるので十分注意する必要があります。そのことを踏まえた上で、その基本的な手立てについて提示します。

	期待できる効果	課題
① 学校の先生が通所して活動見学・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生への安心感や親近感につながる。</li> <li>先生との関係づくりができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の居場所に先生が入って来たといった感情が生まれる。</li> <li>形式的なものに陥りやすい。</li> </ul>
② 適応指導教室の指導者が登校に付き添う	<ul style="list-style-type: none"> <li>付き添ってもらうことで安心でき、登校しようとする気持ちを喚起できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の人員により、実施が困難な場合もある。</li> <li>※学校との連携が欠かせない。</li> </ul>
③ 自分で目標を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で立てることで自主性や前向きなエネルギーにつなげる。</li> <li>自己選択・自己決定し、実行することで自尊感情を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標がストレスや不安を強める要因になることがある。</li> <li>目標通りにいかない時に自尊感情が低下する。</li> </ul>
④ チャレンジデーを設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校への抵抗感がやわらぐ。</li> <li>自信につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の受け入れ状態によっては、自尊感情が低下する要因、強いストレスになる。</li> <li>※学校との連携が欠かせない。</li> </ul>
⑤ 連携シートの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>適応指導教室と学校との情報共有に有効である。</li> <li>保護者への連絡について共通理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の方向性や進路指導については連携シートに留まらず、密な連絡と共通理解が必要である。</li> </ul>

#### ○学校の先生が通所して活動見学・学習指導

- 先生が来室する期間を設定する。適応指導教室の行事に先生の参加を依頼する。
- 先生が来室して子どもの希望する教科や課題を指導する。

#### ○自分で目標を立てる（但馬やまびこの郷の例）

〈学校に向けた目標づくりのポイント〉

- ア ついつい高い目標をつくりやすいので、現時点でできることから内容を段階的に設定する。
- イ 「～を頑張る」など抽象的な目標ではなく具体的な内容にする。
- ウ 2週間～1ヶ月単位でつくる。また、「半年後」「1年後」等、将来の自分に向かってつくる事も大切にしたい。
- エ 必ず、その評価を確認する。できなかった場合は、目標を再設定する。



#### ○チャレンジデーを設定

- 前日に適応指導教室の始業・終業式を設定し、翌日の学校での式の参加を促す。
- 子どもが参加しやすい行事や部活動、定期テストを登校のきっかけとする。
- 子どもの状態に合わせ、登校する曜日や期間を提示する。

（但馬やまびこの郷の例）  
 〆チャレンジデー  
 〆登校プログラム

登校する日	月 日 ( )
登校する時間	時 分 ～ 時 分 校時 ～ 校時
過ごす場所	教室 ・ 保健室 ・ 図書室 ・ その他 ( )
学校でできそうなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生からもらう勉強</li> <li>自分で持って行く勉強</li> <li>読書 (学校図書 持参する本)</li> <li>作文</li> <li>お話 (誰と)</li> </ul>
行ってみる所	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室 ・ 保健室 ・ 体育館 ・ 運動場 ・ 理科室 ・ 図工室</li> <li>音楽室 ・ 校長室 ・ その他 ( )</li> </ul>
会ってみる人	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長先生 ・ 教頭先生 ・ 担任の先生 ・ 養護の先生 ・ その他 ( )</li> </ul>

○「個別の連携支援シート」の活用例（加古川市）

〈役割と効果〉

- ・適応指導教室の職員が情報共有し、同じ方針のもとで子どもへの支援ができる。
- ・適応指導教室の支援のあり方を学校に情報提供し、『来月の支援目標』及び連携方法を学校と共有する。

〈連携方法〉

- ・月末に「個別支援シート」を作成する。（個々の子どもの出席状況や学習状況、日録等から）
- ・月末に適応指導教室運営会議を開催し、スタッフ間の共通理解と翌月の方針を決定する。
- ・「出欠状況報告」を作成し、「個別支援シート」と合わせて子どもの状況を学校長へ報告する。
- ・『来月の支援目標』及び連携方法を学校と共有して次月の支援に生かす。

「〇〇〇教室」個別支援シート

会議日：平成 年 月 日（ ）

【出席者】

氏名	学校名	小 中 学校 担任	年生	〇〇〇 出席数 (現時点)	/	作成者
----	-----	--------------------	----	---------------------	---	-----

■今月の支援目標■

- ①
- ②

■登校方法■

【気付き、安全配慮等】

- ・自力登校（自転車、公共機関、徒歩）
- ・保護者の送迎（自家用車、自転車）

■今月の成長の様子■

	たいへん よかったです	よかったです	できました	やや できなかった	できなかった	状態を前月と比較すると			
						向上	同じ	低下	
基本的な生活習慣	① あいさつ（オ・ア・シ・ス）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	② 規則的な生活（睡眠、食事）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	③ 規則的な生活（通級回数の割合）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	④ 規則的な生活（決められた入室時間）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑤ 規則的な生活（決められた滞在時間）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑥ 制服（校則を守った服装）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑦ 体調・体力・姿勢・清潔	5	4	3	2	1	△	□	▽
心の安定	⑧ 安心した表情や、笑顔が見られる	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑨ 日直、出席、学習計画、振り返りができる	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑩ 自由な発言や、考えを発表できる	5	4	3	2	1	△	□	▽
社会的スキル	⑪ コミュニケーション（対子ども）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑫ コミュニケーション（対職員）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑬ 社会的スキル（企画提案、行動、活動）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑭ 社会的スキル（相手の尊重、協調）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑮ 社会的スキル（奉仕作業、協働）	5	4	3	2	1	△	□	▽
学習意欲	⑯ 学習意欲（自分で準備し、取り組む）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑰ 学習意欲（バランスよく教科学習する）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑱ 学習意欲（自主的に質問する）	5	4	3	2	1	△	□	▽
学校復帰	⑲ 復帰への意欲（学校のことを話す）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	⑳ 復帰への意欲（学校の課題をする）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	㉑ 担任やMSと安心して話ができる	5	4	3	2	1	△	□	▽
	㉒ 学校へ行く（教室、別室、夕方、行事等）	5	4	3	2	1	△	□	▽
	㉓ 進路への意識（卒業後の進路）	5	4	3	2	1	△	□	▽

【担当者から見た適応状態及び気付き】

-----

-----

-----

【心理士から見た全体的な適応状態及び気付き】

-----

-----

-----

【保護者・学校等との連携】

-----

-----

-----

■運営会議での意見・見立て■

-----

-----

-----

-----

■来月の支援目標■

①

②

-----

【備考】

-----

○「個別の連携支援シート」の活用例（但馬やまびこの郷）

- ＜役割と効果＞
- ・学校・適応指導教室・但馬やまびこの郷等が協力して作成し、具体的ななかかわりについて支援の共通理解を図る。
  - ・シートをファイルに整理しておくことで、新しい担当者に支援の内容等をそのつど説明する負担を軽減できる。
- ＜連携方法＞
- ・支援目標は保護者の願いを聞き取り、当所と学校が相談して決定し、但馬やまびこの郷が記入する。
  - ・必要に応じて、医療機関等の関係機関とも連携する。

個別の連携支援シート		作成日	2016/〇/〇		
学校 ↓ 適応指導教室 ↔ 但馬やまびこの郷	記入者	やまびこの郷	〇〇	〇〇	
		学校	□□	□□	
		適応指導教室	△△	△△	
	〇〇 〇〇	性別	女	学年	〇〇市立〇〇中学校 第 1 学年
支援目標	長期的な目標 (1年スパン)	・小学校から継続の不登校であり、他の子どもの人間関係が構築できていないため、他の子どもの人間関係の構築を最優先する。 ・関係機関を利用しながら信頼できる人間の数を増やすことで、家庭から外に出る回数を少しずつ増やし、登校(別室を含む)のきっかけをつくる。			
	短期的な目標 (3ヶ月スパン)	・本人の意思を尊重しながら成功体験を積み重ね、自信につなげる。 ・本人の様子を見ながら学校からの働きかけを増やす。 ・本人のリソース(イラスト描き)にスポットを当てながら、積極的な行動につなげる。			
但馬やまびこの郷入所期間中の支援方針や具体的な内容	学習支援の主な支援・配慮事項	学習時間では持参した問題集に積極的に取り組み、スタッフとの一対一の相談の時間ではリラックスした表情で受け答えできている。関係性が増すことで安心感を与える効果が期待できるため、今後も対話を継続する。		相談内容 【入所の感想】今週は男子が多いが、仲の良い子が一緒なので、夜に同じ部屋の子と話ができて楽しい。 【前回からの変化】生活リズムは0:00頃に寝て、7:30頃に起きる。 夏休み中2回補習に行った。 体育大会は見学した。	
	日常生活における支援・配慮事項	以前からよく知っている気の合う女子生徒と楽しそうな表情で過ごした。スタッフにも自分から話しかける場面が多く見られるようになった。苦手意識の強い活動内容には、記録写真撮影など自分なりの過ごし方を考えて参加することができたので、それを認める声かけを心がける。今後も自己決定による達成感を高めていくことで自信につなげる。		月曜日 適応指導教室 カウンセリング 火曜日 家で過ごす 水曜日 フリースクール 木曜日 フリースクール、塾 金曜日 適応指導教室	
	人間関係・コミュニケーション等における支援・配慮事項	初日の自己紹介では「イラストを描くのが得意です」と付け加えることができた。休み時間はイラストが好きな他の子どもと会話がつながり、一緒に描く姿が見られた。スタッフにも「描いてみる?」「これ何のキャラクターか分かる?」などと自分から声をかける積極的な姿勢が見られたので、そのことを認める声かけをする。秀でた面があることに気付かせるとともに、苦手なことにも向き合う気持ちを高めていく支援に努める。		今後の個人目標 1 家の手伝いをする 2 塾・家で1時間は勉強する 3 学校(カウンセリング) 適応指導教室 フリースクール・塾	
入所期間	H28.〇.〇～ H28.〇.〇	特記事項	特になし		
今後の支援方針	・目標を自己決定させ、達成することで自信につなげていく。 ・教室登校に向けては選択肢(できそうな目標)をいくつか提示する。 ・本人のリソースに着目し、自信につながる声かけを継続する。				
学校における支援内容	(但馬やまびこの郷利用後1週間の働きかけ) 1週間に1、2回、家庭訪問し、本人あるいは保護者に登校の誘いをしている。登校した際には、クラスの生徒2名ずつが別室に給食を運び、一緒に食べている。 学習面においては、他の生徒が学校で現在学習している内容について触れているが、本人には無理強いない。また、クラスの様子を伝えながら、学校行事の参加についても案内し、参加を呼びかけている。 (その後の支援、児童生徒の変化、成果と課題) 別室登校するようになった他の生徒と顔を合わせ、同じ空間で一緒に過ごすことができるようになった。学習面は、過去の問題や問題集に挑戦し、前向きに取り組んでいた。				
適応指導教室における支援内容	・散歩に出かけ、季節の変化を感じながら、体力づくり・リフレッシュを心がけた。漢字検定の勉強を頑張っている。 ・担任の先生、養護教諭と積極的に情報交換し、本人の様子や意思を尊重しながら学校行事への参加方法を相談している。 ・適応指導教室、学校へ送迎している。				
関係機関(医療機関等)における支援内容	・今後の支援方針について共有することで、継続した支援につながる。 ・学校、適応指導教室それぞれが支援内容を記入することで、情報の共有が図れる。				

※この様式は入所ごとに1枚作成します。

◎支援シートは「見える化」と「共有化」が大切!